

Y's Men International

YMI

WORLD



“To acknowledge the duty that accompanies every right”

Only for private distribution to members

YMI ワールド
2020-2021 No.4
日本語版



内容:視点-国際会長としての1年/未来を考える:大小様々な課題が待ち受ける1年/YMIのブランドについて/マイクロ・ヒストリー:ワイズメンズクラブ国際協会国際議会 歴史的観点から(パート2)/上海における最初の海外ワイズメンズクラブの意義、中国/近況報告:ワイズ基金の受益者が恩返しをする/ワイズメネット:ウクライナに公共施設を設置/第一人者:フェロウシップと奉仕の四半世紀/思い出の地へ:我がインドのペッパーフレンド/地域からのニュース:インド、W4W、カナダ、アメリカ、オーストラリアなど/魂の真言:悔い改めの巡礼

編集長のページ

読者の皆さまへ



この四半期は、ワイズ運動にとっても、各国にとっても、特にアジアとインドにおいて波乱に満ちたものとなりました。新型コロナウイルスが猛威を振るい、何人もの会員が犠牲になりました。実際数は、まだ確認されていません。私たちは、亡くなられた方々を悼むとともに親愛なる方々に心からお悔やみ申し上げます。しかし、私たちが直面している脆弱

性にもかかわらず、ワイズの精神は、少しも弱まることなく、そして、YMIワールドのページはその証しです。

世界中のクラブメンバーは、世界的なプログラムである「Heal the World」(「世界を癒そう」)を通じて、インドでの私たちの運動への連帯を表明してくれました。インド地域とそのいくつかの区は、感謝しています。ワイズメンズクラブ国際協会のもう一つの取り組みであるWeek4Wasteを紹介します。これは、いくつかの国、特にヨーロッパで注目され、協調のもと、華やかな雰囲気のものとなりました。

いつものように歴史的な物語が書かれています。ヒストリアン国際事業主任のデビー・レッドモンドは、東アジアでの運動の発展について素晴らしい記事を書いています。しかし、その初期の成長の重要性は、急速に変化する中国やその他のアジア地域の政治的シナリオのために、確固たるものになることはありませんでした。元国際会長のベンソン・ワブレによる創立100周年を迎えた国際議会がどのようにして誕生し、時代の要請に応じて変化してきたかについての寄稿が前号から始まりました。本号では後編として、1972年の50周年までの経緯と、その時に行われた重要な決定について紹介します。

YEEPとSTEPは、見直され、YEEPは、全く新しいものになりました。IGoインターンシップ4グローバル・アウトリーチ「世界に手を伸ばすためのインターン制度」です。これは、特に100周年という節目の年に、私たちの運動が直面している課題に照らして、私たちのミッションを再構築するための歓迎すべきステップだと言えるでしょう。

表紙の写真: 4月に行われたWeek4Wasteでは、多くのクラブが熱心に参加しました。表紙の写真は、ヴァイレ・ノースの郊外で297kgのゴミを一度に拾ったデンマークの31人のワイズメンの一部です。その他の写真は、記事をご覧ください。

ワイズメンインターナショナル公式誌

ワイズメンインターナショナル公式誌

国際本部: Ave Sainte-Clotilde 9, CH-1205 スイス

国際編集長: コシー・マシュー

日本語版翻訳グループ: 田尻忠邦(委員長、大阪)、青木一芳(千葉)、

朝倉正昭(東京世田谷)、今城高之(横浜つづき)、田中博之(東京

多摩みなみ)、利根川恵子(川越)、比奈地康晴(東京)、倉田正昭

(京都)、谷川寛(大阪センテニアル)、谷本秀康(広島)、中井信一

(奈良)、前田香代子(熊本ジェーンズ)

印刷: (株)三浦印刷所 三浦克文(岡山)

う。カナダ/カリブ海諸国地域、オタワクラブのマリリン・ハミルトンは、STEPやYEEPの元生徒、その他YMI/YMCAの助成金を受けた人々を探し出すことができました。本号では、そのような卒業生の一人を紹介します。次号では、さらに多くの人物を紹介する予定です。読者の皆さまには、若いリーダーを育成する運動の役割をご理解いただけたと思います。

直前国際会長のジェニファー・ジョーンズと元地域会長のウルリック・ラウリドセンが思い出を語り、私たちの歴史的意義のもう一つの側面である、運動の中での個人的な成長と交友関係を紹介しています。

「生きていくことに集中する」は、最近のテレビドラマのセリフである「殺されないことに集中する」をもじったものです。ここには、哲学者であり生態学者でもあるティモシー・モートンが2013年に発表した「ハイパーオブジェクト: 世界終末後の哲学と生態学」で語っている「ハイパーオブジェクト」の、明確で、そこにある危険性を見出すことができます。モートンが語っていたのは、「自分たちよりも大きい、広大で未知のもの」、つまり「人類の歴史の次の瞬間に責任を持つ」「人間以外の存在」です。生態学者である彼は、特に大気中のすべての炭素について言及していました。しかし、今日の文脈で言えば、新型コロナウイルスは、これから長い間、私たちの考え方や、私たちがお互いに影響し合う方法を形作っていく「人間以外の存在」だと言えるでしょう。私たちは、その死の支配力を克服したとは言えないし、ましてや破壊したとは言えません。それは、ここにも、あそこにも、そしてどこにでも存在します。この人間ではない存在への行動反応を変えるのは、私たち人間にかかっています。

どうぞ安全で、健康でいてください。

ワイズリー

編集長 コシー・マシュー

私の本棚から

「パンデミック後の世界のための10の教訓」ファリード・ザカリア著
レーニンがかつて、「何も起こらない数十年があり、数十年が起こる数週間がある」と言いました。これは、歴史が加速した時代のひとつです。CNNのホストであり、ベストセラー作家であるファリード・ザカリアが、パンデミック後の世界とはどのようなものなのか、政治、社会、技術、経済など、何年ものかけて展開されるであろう影響を読者が理解できるようにしています。

10個の分かりやすい「教訓」という形でグローバル化と脅威への備えから不平等と技術の進歩まで、ザカリアは、読者が「新型コロナウイルス」の直接的な影響を超えて考え始めるための構造を作っています。「パンデミック後の世界のための10の教訓」は、過去、現在、そして未来に向けて語っています。そして緊急かつタイムリーでありながら、定番の本になることは間違いないでしょう。(グッドリーズの書評)



国際会長としての1年

「いつになったら元に戻るんだろう」。私たちは、ともに尋ねあいます。

異常が当たり前になりつつあります。しかし、普段のワイズメンズクラブの活動の思い出も、考えてみればただの思い出になっていました。消えてしまったクラブの活動年。握手やハグで挨拶した時のことを考えてみてください。

まるで1年間、息をさせていただきかのようにです。新型コロナウイルスとの戦いの最初の波である数ヶ月後には、様々な制限のもとでの穏やかな再開に安堵の息をつきました。あの時、多くの人が感じ、考えたのはこれで終わったのだらう。もうすぐ自由になれるのだと。ミーティング活動を予約したり、計画したりしていましたが、実際にはそうではありませんでした。感染率、接触率、入院率、死亡率など、すべての悪いものが増えました。

最初のワクチントラックがヨーロッパを通過したとき、私たちは、安堵のため息をつきました。

私たちは、期待に胸を膨らませました。そして、今度はすぐに私たちが、生きる喜びを腕全体に与える番でした。上腕部に至福の点がある。私たちは、焦って息を呑みました。これでまたカフェに行ける。これでまたクラブで会うことができる。それは、ある人にとっては、何とも言えない居心地の良さを感じた人もいますが、その間にも世界の死者数は増え続けているのです。

我慢してください、もう少しだけ、とあちこちで聞こえてきます。

YMIは、考えられないことをやってのけました。創意工夫と離れた場所での一体感。創造性が花開きました。バーチャルミーティングが開始され、寂しさが少し和らぎました。彼らは、お互いを知るようになりました。ミーティング活動は、コンピュータの画面を使って行われました。活動を休止したクラブがあれば、日の目を見たクラブもありました。創造性は、素晴らしいものでした。そして新年度に向けての息吹を感じています。新年度においては、感染症を防ぐためには、新しい規範に従わなければなりません。

国際会長がオフィスにしっかりと鎖で繋がれ、旅行やミーティングの活動がゼロだった2020-21年のクラブイヤーは、このまま片付けてしまっているのでしょうか。いいえ、違います。YMIは、決して怠け者ではありません。初日から、私たちは、すべてのレベルで活動レベルを可能な限り高くすべきだと決めていました。そのために多くの画面上でのミーティングが生まれました。100回以上のミーティングが、国際会長の参加を得て行われました。そうです、私たちは、旗を高く掲げ、コロナウイルスが猛威を振るっても、すべての活動を全力で継続することを伝え合ったのです。

今年度は、5つの異なる地域に93の新クラブが誕生しました。これで73カ国にクラブがあることになります。若者に

焦点を当て、私たちの活動を継続するために必要な人たちにとって、YMIがより魅力的なものになるようにしました。近いうちに、衰退して久しいYEEPに代わる新しいユースプログラムが登場するでしょう。私たちは、メッセージやニュースをすべてのユーザーに届けるために、新しいコミュニケーション・チャンネル・システムを立ち



上げました。ジュネーブにすべての職員を収容できるIHQのビルを購入する計画を立てました。PWAレガシー基金は、この物件を購入するための資金を必要としています。私たちは、鳴り物入りでこの必要なプロジェクトに取り組まなければなりません。新しいプロジェクト「Week4Waste」は、大成功を収めました。すべての委員会は、決められた仕事を集中的に実行してきました。10年後、私たちの活動はどうなっているでしょうか。私たちはどのようにして将来に備えることができでしょうか。この課題を解決するために、私たちが提携したのが、180 ディグリーズ・コンサルティングという非営利団体と働く大学生の世界的な組織です。

100周年チームは、100周年を記念して、あらゆるレベルの活動を行っています。

国際レベルとクラブメンバーの間の距離を縮め、すべてのメンバーが運動の最新情報を入手できるようにするために、私は、毎月、国際会長ニュースを配信しています。強調月間のプログラムの報道、IHQからのニュース、国際会長のあいさつとコメント「いい話をしよう」と題してクラブレベルでの様々な特集を掲載しています。国際会長ニュースは11カ国語で発行され、公式サイトでご覧いただけます。



YMIワールドの郵送についての重要なお知らせ

2020年以降に発行される「YMIワールド」について、読者およびクラブ会員の皆さまには、以下の点にご注意ください。

新型コロナウイルス発生後の2020年以降に発行されたYMIワールドは、多くの国際便の運航が中止されたため、インドの郵便当局が海外への郵送を受け付けていません。配布チームには、追って連絡があるまで保留するよう指示がありました。

このような状況により、また、インドのクラブメンバーの読者の最新の郵送先がわからないこと（この地域には多くの紙媒体が郵送されています）のため、郵送物の印刷を中止しなければなりません。そのため、状況が好転するまで本号からYMIワールドは、PDF形式でのみ提供されます。

ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

編集長

大小さまざまな課題が待ち受ける 1 年

世界中のワイズメン、ワイズウィメンの皆さま

次期国際会長として、YMI ワールドを通じて皆さまにご挨拶できることを、大変光栄に思います。



2021/2022 年の国際会長計画の概要を説明する前に、昨年度の私たちの運動に対して卓越したリーダーシップを発揮し、指導を行ったジェイコブ国際会長、ジェニファー直前国際会長、フィリップス国際会計、ジョース国際書記長に感謝したいと思います。

私たちの運動の歴史の中でも最も困難な年の一つでしたが、組織のあらゆるレベルのメンバーのたゆまぬ努力のおかげで、世界中でワイズメンの精神を守り続けることができました。皆さまに敬意を表し、心の底から感謝します。

私の年度は、これから大小さまざまな課題が待ち受けていることでしょう。しかし、勇気ある者には、必ずチャンスがあります。強い意志と連帯感を持つことが、絶望から立ち上がる力となります。私たちの努力は、これまでも回復力に富んでいましたし、これからもそうであり続けるでしょう。また、ワイズメンズクラブのメンバーのほとんどが同じ夢を共有していることを知って、私は、勇気づけられています。その夢とは、私たちのコミットメント、寛大さ、そしてメンバー一人一人の行動が、私たちの偉大な運動をさらに100年、そしてその先へと前進させるというものです。

私は、「成長」を最優先事項としています。これは、会員数の増加、プログラムの規模の拡大、そして私たちの寄付金の増加を意味しています。YMI の次の100年を確かなものにするためには、知名度の向上、認知度の向上、そして確固たるブランドの構築が重要な要素となります。

会員の高齢化が急速に進んでいることや、現在のパンデミックがもたらすネガティブな状況を考えると、YMI は今、岐路に立っていると言えるでしょう。

次期国際会長として、私は、「Heal the World」(世界を癒そう)の取り組みを活用することを提案します。これは、特定のニーズに対応するあらゆるレベルの協力的で連携のとれたプロジェクトを通じて、国際的な関与と組織的な連帯を強化し、コロナウイルスによって破壊された世界に救済と希望をもたらすことを想定した世界的な取り組みです。

国際会長として、ワイズメンの仲間の皆さまに3つのお願いをしたいと思います。

私たちは、特色ある会員増強の時代を作る必要があります。そのために、地域のリーダーは、目標数値を共有しています。要は、高い目標を掲げ、それを達成することに最大のウェイトを置くということだと思います。

トロイカ・システムの重要性が何度も強調されています。私

たちは、運動のあらゆるレベルでトロイカ・システムを構築し続けます。オンラインでも対面でも、少なくとも週に一度は、お互いに会うようにしてください。私は、クラブライフにおいて、楽しさ、親睦、祝祭性を高めることで、不安を克服し、クラブメンバーのメンタルヘルスを強化し、この未曾有の時代に回復力を発揮することができると心から信じています。

また、皆さまには、私たちの運動に対する熱意をお願いしたいと思います。皆さまに申し上げたいのは、何か打ち込めるものを見つけてほしいということです。友人、プログラム、プロジェクトから学び、YMI の中で自分の熱意や興味を持続できる意義あるものを見つけ、それを第一線で実践する努力をしてください。このような努力を積み重ねることで、いつしか個人としても組織としても成長しているはずですよ。

最後になりましたが、ぜひ「Heal the World」のプラットフォームに参加して、一緒に旅立ちましょう。路上で病気になるったり、食事の心配をしたり、そんな心配をしながら日々を過ごしている人たちよりも、私たちのメンバーの多くは、恵まれているのではないのでしょうか？

2022 年は、ワイズメンズクラブ国際協会の100周年の年です。親睦を深め、お祝いをし、そして何よりも私たちのコミュニティや世界中で良いことをしていく一年になることを楽しみにしています。世界中の人々の生活を脅かすパンデミックのために、全世界が分断されています。苦しんでいる人たちがいるのですから、私たちは、世界と共にあるべき時なのです。私は、「愛と尊厳で世界を癒そう」というスローガンを掲げ、今年の主題(テーマ)として「世界とともにワイズメン」を選びました。世界中のワイズメンの皆さまには、この世界を誰にとっても住みやすい場所にするために、愛と思いやりをもって世界を癒すための旅に出る準備をしていただきたいと思います。

親愛なるメンバーの皆さま、皆さまには、100周年の夢を築き、花崗岩や大理石に刻まれるのではなく、来るべき世代の人々の生活や心の中に永遠に残る運動を祝うための1年が与えられています。これは、私たちの時間です。二度と来ることはありません。私たちは、それをつかみ取りましょう。恵まれない人々に手を差し伸べることで、それを祝おうではありませんか。皆さまは、神から多くの才能を与えられています。そして今、皆さまは、それを他の人と分かち合うという素晴らしい機会を得ています。あなたの才能、エネルギー、そして1年間にあなたが持っているすべてのものを持ち寄って、私たちのテーマである「世界とともにワイズメン」を宣言し、世界に奉仕し、人類をサポートしてください。

これから始まる挑戦的で実りある一年に、心からの祈りを込めて

キム・サンチェ

2020/21 年度 次期国際会長

YMI の未来を形作る

創立100周年を目前にして、組織の将来を見据えることは重要です。5月には、若者の参画・活動、イメージ構築とブランディングの強調月間です。

「あなたのブランドとは、あなたがその場にいないときに他の人があなたについて言うことである。」という有名な言葉があります。今日、人々は、あなたのクラブについて何と言っていますか。感情的な生き物である私たちは、自然と感情を持ち、意見を形成します。私たちは、他人とのつながりやコミュニケーションに特に注意を払います。ですから、あなたがクラブ内でどのように行動し、どのように話しているかが非常に重要なのです。

さて、クラブメンバーがクラブライフの経験について何と言っているか想像してみてください。そして、あなたの奉仕活動について、地域の人々は、何と言っているでしょう。これらは、すべて、あなたのクラブブランドを定義するための要素です。あなたは、これまでに何度、製品やブランドを「好き」と言ったことがありますか。ブランディングとは、単に名前やロゴのことではありません。それは事業の個性を具体的に表現し、あなたが何者であり、どこへ行こうとしているのかを雄弁に物語ります。それは、人々に参加する理由やとどまる理由を与えるものです。

論理的に考えれば、ワイズメンズクラブ国際協会の次の100年に何が起るかは、若者とブランディングの両方が鍵となります。今日の若者は、明日のワイズのリーダーであるだけでなく、YMCAの進化のための紛れもない原動力なのです。5月には、ワイズにとってエキサイティングな月になりそうだとお伝えします。現在、積極的に展開しているウェブサイトのユース部門にもご注目ください。

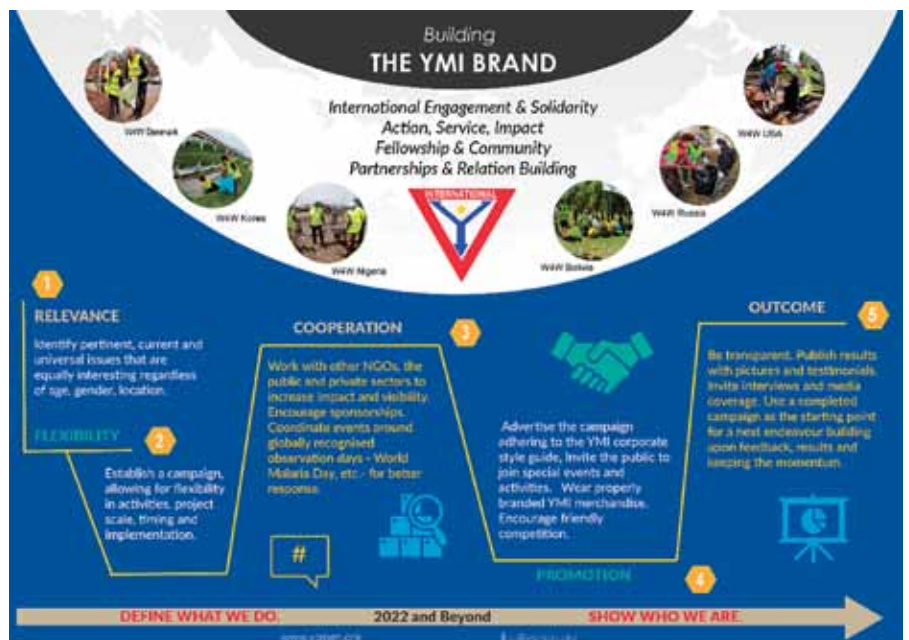
YMIブランドを構築する上で、私たちは、現在の高齢のクラブメンバーを尊重しつつ、新しい、若い会員を鼓舞する方法を模索していることを忘れてはなりません。もちろん簡単なことではありませんが、適切な協力、評価、計画があれば乗り越えられないものではありません。最初のステップは、運動の国際的な精神を刺激することです。地域の主

体性や家庭での個別の仕事を損なうことなく、国際地域社会に属することへの関心と誇りを取り戻すことです。この新たな精神から、普遍的なコンセプト、メッセージ、そして最近、成功裡に完了したWeek4Wasteのような活動キャンペーンを開発することができるのです。国境を越えて協力することは、より大きな影響力を持つことを意味し、YMIのビジョン宣言に示された国際的な認知に近づくことになります。先日、グローバルファンドと共同で米国政府にアピールしたことは、ブランド認知度を高めるための戦略的パートナーシップの力を示す一例です。

5月の強調月間に合わせて、国際本部は、文化的な理解を促進し、その結果、兄弟愛と世界平和を推進する世界的に認められた奉仕団体になるという目標を達成するために役立つ、5つの重要な考慮事項、つまり関連性、柔軟性、協力、促進、成果を強調したチラシを作成しました。

国際的な指導者たちは、Week4Wasteのような新しい共通の行動を、新しいHeal the World（「世界を癒そう」）の構築の内外で展開することを期待していて、新型コロナウイルスの環境における新たな人道的ニーズに取り組むことを優先しています。

YMI ウェブサイトから



YMI ブランドの構築／国際的な約束と連帯・行動、奉仕、影響・親睦とコミュニティ・協調と関係構築

写真は左から、W4W デンマーク 韓国 ナイジェリア ボリビア ロシア アメリカ

- ①**関連性**:年齢、性別、地域に関係なく、同じように興味を持たれるような、適切、時事的、普遍的な問題を特定する。
- ②**柔軟性**:活動内容、プロジェクトの規模、時期、実施方法に柔軟性を持たせたキャンペーンを実施する。
- ③**協力**:他の NGO や官公庁、民間企業と協力して、インパクトと認知度を高める。スポンサーを募り、世界的に認知されている日(世界マラリアデーなど)に合わせて、より良い反応を求めてイベントを行う。
- ④**促進**:YMI の組織スタイルガイドに沿ってキャンペーンし、特別なイベントや活動への参加を呼びかける。適切にブランド化された YMI グッズを着用する。友好的な競争を奨励する。
- ⑤**成果**:透明性を保つ。結果を写真や体験談とともに公表する。インタビューやメディアの取材を受ける。完成したキャンペーンは、フィードバックや結果を基にした次の試みの出発点として使用する。

私たちが何をするのかの定義 / 2022 年およびそれ以降 / 私たちが何者であることを示すー

ワイズメンズクラブ国際協会国際議会 歴史的視点から [パート 2]

元国際会長 ベンソン・ワブレ、ケニア

これは、ベンソン・ワブレ元国際会長によって編纂された国際議会の歴史に関する3回シリーズの記事の第2回目です。同氏が国際協会関連の書籍、マニュアル、方針、パンフレット、国際議会議事録を読んでまとめました。2017年6月版「元国際会長ニュースレター」に、編者である同氏によって掲載されたものです。

YMIの組織の、より多くの改革が、特に1956年と57年になされました。ゴードン・ストウ元国際会長(54/55年の国際会長)の指揮する委員会が、たいへん行き届いた推奨案を作成したのです。その「ストウ委員会」の推奨案は、1958年サンタモニカでの国際大会で承認・採用されたのですが、要は、国際憲法と細則を修正すること、その主眼は、現在私たちが持っている組織の初期形態ともいえる「公式伝達系統」の創出でした。

「公式伝達系統」は、クラブ、部、区および国際という4つの基本構成部分から成るとしました。全体的な方針・権限は、国際大会と国際理事会にあるとされ、区大会、区役員会や部評議会ではこれを順守履行すること、補足は、可能だが違背してはならないこととされました。

歴史的な変革

1959年から1971年にかけて、ワイズメンズクラブ国際協会の業務について、国際理事会は、着々と実証試行を積み上げ、権限と能力を獲得してきました。1972年にワイズメンズクラブ国際協会は、創立50周年を迎えました。国際協会の組織と行政の地殻構造が変動する、画期的な出来事が目撃されました。それは、この1972年の米国オハイオ州アセンズでの国際大会の席上、協会組織と国際憲法についての提案がなされた時でした。

カリフォルニア州サンディエゴ出身のハインツ・グラビア新国際会長はこの提案を直視し、大会参加者の空気を捉えて、こう演説したのです。「今やワイズダムの新しい夜明けだ」、「未来は輝いている」、「喜び祝おう、新しく活発なワイズダムが生まれつつある」。まさしくそれは、ワイズダムの新しい夜明けでした。なぜなら、この大会で披露された新国際憲法が1972年から73年にかけて批准され、成立したからです。

この新憲法は、ワイズメンズクラブ国際協会の機構と組織に根本的な、よく行き渡った改革をもたらしました。

この改革は、今もなお身近に感じられます。例えば次の諸点です。国際協会の立法機関として国際議会(IC)が創設され、それまでの国際理事会にとって代わりました。ICは、5名の国際執行役員(国際会長、次期国際会長、直前国際会長、国際会計および国際書記長。議決権はない。)と21名の国際議員(議決権あり)によって構成されます。国際議員の選出方法は、各地域のクラブ会

員がその地域の代表となる議員1名を選んでICに送ります。残りの議席は、各地域の会員数に比例して割り当てられ、各地域でその人数の議員を選挙により選出します。会員数の増減がICにおける議員数に反映されるわけです。ワイズダムで初めに設置された4つの地域



は、この時7つ(アフリカ、アジア、カナダ、欧州、ラテンアメリカ・カリブ海、南太平洋および米国)に増やされました。地域代表の議員は、国際副会長と呼ばれていましたが、のち1982年に地域会長と改称されました。

1972年のICでは、国際憲法で規定された正式名称「ワイズメンズクラブ国際協会」のほかに、「ワイズメンインターナショナル」(YMI)と称することを承認しました。新発足したICは、国際規模の活動を掌握し、YMCAを通じて世界の人々に奉仕するという使命の遂行のために、国際協会の全組織を督励する責任をもちます。IHQの機能は、米国からスイスのジュネーブに移されました。

IHQの移転

1973年9月1日にイングヴァー・ワリン国際書記長が就任し、ジュネーブでIHQの運営の責任者となりました。従来のIHQは、ワイズ米国事務所となり、ジェリー・ハイル前国際書記長は、GOLD計画と呼ばれた米国内ワイズ開発計画の責任を執る書記長に指名されました。以後、国際協会の予算は、スイスフラン(CHF)で表すことになり、ICは、国際運営予算を維持するために各区が納入する人頭割り均等分担金の額を決定する権限を与えられました。ただしその決定には全区の単純多数決の賛成が必要でした。ワイズの会計年度は、ICにより毎年7月1日から翌年6月30日までと定められました。

クラブ会員の資格は、男女両性に開かれました。のみならず、誰も、人種、信仰、皮膚の色、性別、出身国を理由には、会員となることを拒まれません。

国際大会は、毎年開催が続けられてきましたが、1976年以後は、隔年(偶数年)開催に変更されました。そして地域大会が奇数年に開催されることになりました。

次号に続く

中国・上海における海外初のワイズメンズクラブの意義

元地域会長、国際ヒストリアン事業主任 デビー・レッドモンド

キリスト教を重視することは、キリスト教青年会の使命の重要な部分であり、自分たちの国以外に行って、地域内のクリスチャンに奉仕する YMCA の設立を支援することが決定されました。アメリカやカナダの YMCA から若手や学生スタッフが YMCA の設立やスタッフのトレーニングを行うために派遣されました。

中国への派遣

ハワイのヌウアヌ YMCA から若い YMCA 職員が、「外国人主事」として上海 YMCA に派遣されたのは、1924 年のことでした。彼は、英語だけでなく中国語も話したので、会員やスタッフとのコミュニケーションが取れるという利点がありました。彼は、コー・フォン・ラムという人物で、ユースとしてホノルルのヌウアヌ YMCA に入会し、様々なスポーツ大会に参加した後、第一次世界大戦に従軍しました。K・F・ラムは、英語・中国語の 2 言語に堪能であり、上海 YMCA を成功に導こうと燃えていました。上海で働いていた K・F・ラムは、YMCA の人気雑誌である「アソシエーション・メン」



1928年

上海ワイズメンズ幼児クリニック 誌を読んでおり、その雑誌の中で、トレド・ワイズメンズクラブが、会員増強貢献者（YMCA に 100 米ドル以上の寄付をした人）を活用して設立されたという広告と出会いました。このコンセプトとアソシエーション・メン誌からの情報をもとに、ラムは、会員増強貢献者を集めて上海ワイズメンズクラブを設立しました。こうして、1924 年に北米以外で新しいクラブが結成されたのです。ラムは、翌年、ハワイのホノルルに戻り、1926 年にはハワイで最初のワイズメンズクラブを設立しました。

この上海クラブは、主にコミュニティ内のビジネスマンで構成されていました。チャーターメンバーの一人であるウィリアム・インソン・リーは、オーストラリアで生まれ、英語と中国語の家庭教師の下で教育を受けました。彼は、1922 年と 1923 年にアメリカを旅行した際に、新しく設立されたワイズメンズクラブのことを聞いていました。このクラブは、

地域社会が必要としている奉仕を提供するためにがんばっていました。彼らの最初の挑戦は、1925 年に行われた上海 YMCA のための財政キャンペーンで資金を集めることでした。1926 年には、ファッションショーを開催して 1 万米ドル以上を集め、その資金で貧しい家庭のための無料の幼児クリニックを設立しました。ある年には、そのクリニックでは、25 万人の子どもたちを診察しました。上海のワイズは、少年たちのための図書館に本を提供したり、海外からの訪問者をもてなしたりする活動をしていました。また、子供用の公共の遊び場を 2 か所作り、コミュニティセンターを支援しました。（リーは、中国のハンセン病患者への宣教活動にも参加していて、病院の建設にも携わっていました）。



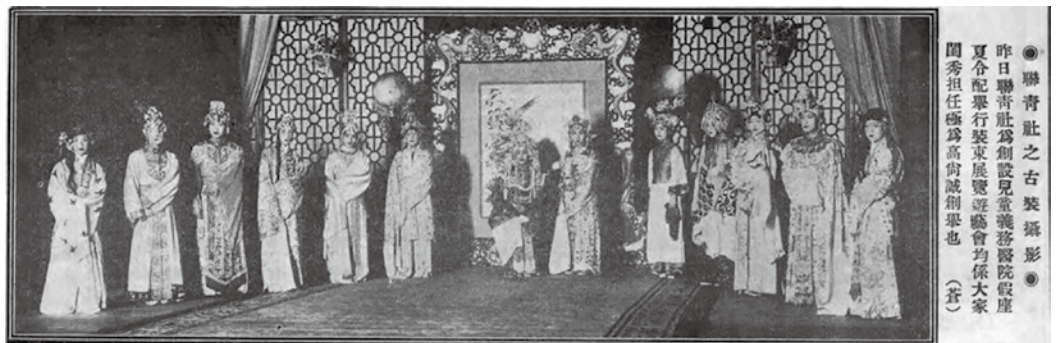
ウィリアム・インソン・リー

不安な時代

上海の中国 YMCA の中に上海ワイズメンズクラブが誕生しました。海軍 YMCA や、1935 年から 1948 年まで続いた国際 YMCA という YMCA もありました。1932 年、上海と南京が日本軍の爆撃を受けました。この 2 つの都市のワイズメンバーは、ワイズメンズクラブ国際協会に、国同士の争いを解決するための助けを求める嘆願書を送りました。世界展望委員会（ワールド・アウトLOOK委員会）は、中国と日本のワイズだけでなく、様々な指導者にも電報を送り、国同士の平和を求めました。

1937 年、日本軍が、上海に進駐しました。一連の空襲で、上海 YMCA は、爆撃を受け、ワイズメンズクラブが開設した無料の診療所も破壊されました。この爆撃は、YMCA だけではなく、上海に押し寄せる難民をどのように救済するかを話し合っていた上海ワイズメンのグループにとっても重要な意味を持ちました。

（次ページへ続く）



1926年上海ワイズメンによる募金活動のためのファッションショー

ワイズ基金の受益者が恩返しをする マリリン・ハミルトン オタワ Y サービスクラブ、カナダ

カナダ・ブリティッシュコロンビア州、バンクーバーのギフティ・サーベ・ダン は 2005 年からフェアトレードを起業し「シアバター・マーケット」を経営しています。彼女は、かつてオタワクラブと地域の YMCA がカルトン大学の外国人留学生のために立ち上げた基金の恩恵を受けた学生です。フェアトレード起業家としての彼女の働きは、出身地であるガーナの女性たちへの思いやりと環境への責任を取りたいという彼女の気持ちを表しています。彼女は、マリリン・ハミルトンに自分の希望と夢を語りました。

「私は、夫と共に、北ガーナのシアバターを作っている女性から輸入したシアバター製品の小売りと卸をする小さな会社を経営しています。」

「私は、1981 年にカナダに参り、オタワが私のカナダでの最初の故郷となりました。私は、家族の友人を訪ねてきましたが、幸運にも 1 年間のビザを手に入れることが出来ました。私がカナダに来てから数か月後にガーナでは軍によるクーデターが起こりました。ガーナの混乱を考慮して、私の家族は、私がカナダに引き続き留まれるよう手配してくれました。私は、高校に入学し、その後カルトン大学に進みました。」

1990 年、ギフティは、カルトン大学の留学生を支援する基金から最初の奨学金を受け取りました。そのジョージ・ジャクソン基金は、現在のオタワ Y サービスクラブとナショナル・キャピタル・リージョン YMCA-YWCA が、Y サービスクラブのメンバーであり、長年にわたり YMCA、YWCA のリーダーとして活躍した Y サービスクラブのメンバーを称えるために設立したものです。

「この奨学金は、現在の起業家としてのプロセスを始めることを可能にしてくれたと同時に、私のカルトン大学での学業を継続することを可能にしてくれました。私が得た支援は、私に希望を与えてくれ、学業で成功するための努力を続けさせてくれ、常によりよくすることを可能にしてくれました。私は、私が助けられたように他の人を助けたいのです。」

ギフティは、国際的な仕事をしている夫共々、出身地の北西ガーナのワ村への旅を始めました。村の長老たちは、彼女に

対して訪問のたびごとに必要な様々な物品を持ってくるより、むしろ仕事や機会を提供してくれるよう求めました。ギフティが見たのは、北米市場で人気上昇中であったシアバターを女性たちが作っているところでした。

「私のタプコ未亡人グループとの仕事は、クペリシ村の女性の仕事を変えることです。私は、女性たちが生産するシアバターをスキンケア製品にしてカナダ、アメリカ、英国で販売しています。」

「私たちは、女性たちに生産にとっても必要な道具を提供することで労働環境を改善できることを知っています。私たちは、クリームや石けんを作るシアバターをまた、彼女たちに学校やタンクで溶解するギフティ・サーベ・ダン健康維持に必要な現金収入をもたらすことが出来ました。この 2 つは、彼らが支援を必要としていた最も重要な事柄であり、私たちは、それに取り組みました。」

「ビジネスを成功させるために必要なことがあれば、それは何か是非アドバイスを下さい。正直さと良きユーモアのセンスです。正直さは、ビジネスの中で犯した間違いを受け入れさせてくれ、助けが必要な時には求めることを許してくれ、私が行う全てを透明なものにしてくれます。また、それは、私を誠実なものとしてくれ、常に誠実な場所から誠実に経営させてくれます。」

「あなたは何を空想しますか。よりよい世界です。富を分かち合い、相互依存しており、互いに必要としており、環境に敬意を払い、与えられた賜物を当然のことのよう思わない世の中です。」



前ページからの続き

爆撃は、まさにこのワイズメンの会合中に起こり、メンバーのうち 8 人が負傷したことは、特筆に値します。ウィリアム・インソン・リーも爆撃で負傷した一人でした。無料診療所は、完全に破壊されました。ウィリアム・インソン・リーは、香港に逃れてワイズメンズクラブを設立し、1941 年にはシンガポールに行きさらにクラブを設立しました。

忠実なワイズメン、リー

第二次世界大戦中、上海のワイズメンたちは、政治的闘争の影響を受けながらも、慎重に会合を続けていました。1946 年のインタビューでリーは、自分のクラブが最も誇りに思っているのは、「連合軍への奉仕活動合同委員会」を

設立できたことだと語っています。このグループは、軍人が「悪徳な店員」の犠牲にならないように、軍人のための「ショッピングモール」を作りました。また、他の中国のワイズメンのグループと同様に、連合軍に娯楽を提供していました。リーが 1946 年に国際大会のためにアメリカに戻ることができたのは、中央大西洋地区のいくつかのクラブのおかげでした。彼は、最終的に米国議会に認められ、1951 年にアメリカの市民権を得ました。リーは、「中国系アメリカ人慈善眼科医療協会」を設立しました。上海ワイズメンズクラブの創始者である K・F・ラムとウィリアム・インソン・リーは、40 年以上に亘ってワイズメンズクラブに貢献しながら、それぞれ 1964 年と 1965 年に亡くなりました。

ウクライナに公共施設を設置

ウクライナ・ザポリシヤ州の社会的弱者である子どもたちの健康的な生活習慣を促進する手段としての
スポーツと非公式教育 –2020年-2022年国際ワイズメネットプロジェクトの最新レポート

私たちは、地域センターの園庭に体操器具を備えた屋外運動公園を設置しています。地域センターは、孤児や貧しい児童の世話をしています。屋外運動公園は、地域の人々に大変喜ばれています。ウクライナ YMCA の企画担当者であるビクター・セルブロフは、四月末にようやく運動器具が設置されたと、語りました。ウクライナの冬は、大変寒く、世界の地域と同様に新型コロナウイルスの影響は、非常に大きいものがありました。ウクライナの半分の地域は、新型コロナウイルスの最重点汚染地区で、強い移動禁止措置が取られていて、ザポリシヤも新型コロナウイルスの最重点汚染地域となっています。悲しい事に、サポリシヤの近隣は、ロシア軍との戦闘地域であり、そこに運動器具を設置しました。ビクター・セルブロフによれば軍事的緊張は若干弱まっているとのことで、私たちは、この状況が継続する様祈っています。子供たちは、運動器具を楽しむことが出来ますし、それは、素晴らしいことで、彼らが日常的に不安

定な生活を送っている中で大変感謝をしています。ビクター・セルブロフが送ってくれた写真には、多くの幸福な子供たちが写っています。ワイズメネット国際ショナルプロジェクトが有益であるかどうか、あるいは変化をもたらすものであるかどうかについて疑問をお持ちの方は、この幸せそうな顔を見ていただければと思います。

すでにいくつかのワイズメネットクラブが私たちの基金に寄付をしてくださっていることを知っています。心から感謝したいと思います。まだご寄付をされていない方は、それがもたらす変化の事を、ぜひご検討ください。

次の最終段階では、プロモーション資料を作成し、子供たちに健康的なライフスタイルを身につけるためのトレーニングを提供します。

ジョイ・マクナマラ

国際ワイズメネット

プロジェクトコーディネーター 2018-2022



「社会的弱者である子どもたちに幸せをもたらすことができれば、国際ワイズメネットのプロジェクトを支援する価値があると思います。」



地域センターの
子どもたちの一部

第一人者

フェローシップと奉仕の四半世紀
直前国際会長 ジェニファー・ジョーンズ

24年前にアデレード・クラブに入会したとき、私は、将来のことを全く考えていませんでした。それ以前に、私の教会は、地元の他の教会と協力して、地元の郊外の一つに新しいYMCAを設立しました。1979年に設立されたティー・ツリー・ガリーワイズメンズクラブは、このYMCAでミーティングを行い、YMCAのために多くのキャンプやファンランを手伝っていました。カンガルー島でのキャンプは、シンプルな設備でよく知られており、来ている子どもたちにユニークな体験を提供していました。地元のYMCAが閉鎖されたため、クラブは、アデレードYMCAでミーティングを行うようになり、グループ名をアデレードYサービスクラブに変更しました。

オーストラリアを訪れたBF代表の多くは、たいていアデレードを訪れ、ラッセル(私の夫)と私は、何年にもわたって彼らのほとんどを受け入れてきました。これは、ワイズメンズクラブ国際協会の幅広さと奥深さを知り、理解し始めるための素晴らしい方法でした。

背中を押され、グローバルな世界へ

BF代表の一人が、2004年にインドのコーチで開催される国際大会への参加を勧めてくれました。この大会では、世界中のワイズメンズクラブ国際協会の人々と出会うことができ、目からウロコでした。国際大会の後には、BFの友人たちとトリバンドラムで過ごし、インドでの生活を実体験しました。BFプログラムがクラブメンバーに提供している機会については、まだ十分に知られていないのではないのでしょうか。

2011年にラッセルがBF代表としてインドに行ったとき、私たちは、自分たちでBFを体験しました。分刻みの3週間のスケジュールが計画され、バンガロールやコーチ、ケララ州の他の町で多くの家族が私たちを受け入れてくれました。忘れがたい時間を過ごすことができ、素晴らしいもてなしと心遣いをたいへん有り難く思いました。この旅行は、フィン・ペダーセン国際会長の



ジェニファー&ラッセル・ジョーンズ
2011年6月、BF代表訪問中に
インドにて

の就任式が行われた地域大会に出席することで締めくくられました。BFの旅は、他のメンバーが直面している問題をよりよく理解し、私たちが家で楽しむ小さなことへの感謝につながります。

インドを旅行中に、フィリップス国際会計は、エイズ患者とその家族を支援するTOFプロジェクトの施設に私たちを案内してくれました。現地のコミュニティで行われている医療活動や健康教育を目の当たりにすることができました。近くの孤児院に住む少年たちの明るい



2019年、仙台にて国際会長に就任後、家族と友人とともに
(左より)マシュー・ジョーンズ(息子)、ジェニファー・ジョーンズ国際会長、エンマ・ジョーンズ(孫)、ラッセル・ジョーンズ(夫)、サンドラ・バラード(パララットクラブ)、ビル・シュミット(カンガルーフラットクラブ)

シャツと笑顔に心を打たれました。

ラッセルと私は、オーストラリアで開催される数多くの大会や会議に参加してきました。ほとんどの場合、ビクトリア州を訪れ、地元のクラブメンバーと知り合いになりました。2007年にアデレードで開催された国際議会をはじめ、いくつかの大会の運営を手伝いました。再度になりますが、このような機会を通じても友情が深まりました。

旧南太平洋地域の地域会長としての私の役割は、YMIの世界を他の重要な意味で開いてくれました。会長職の間、私たちの活動を強化するために協力し合い、私たちがよりふさわしい、目に見える存在になるための手助けをしてくれた人々との友情も育まれました。私の任期の終わりには、南太平洋地域が単独で運営するには小さすぎるということで、南太平洋地域とアジア地域の合併に携わりました。

新しい役割について

次期国際会長の間、私は、バンガロールで開催されたインド地域次期理事研修会に参加し、その後、インド地域会長のV・A・タンカチャンの案内でケララ州の多くのクラブプロジェクトを訪問することができました。壊滅的な洪水の後、新しい家の鍵を手にした人々の喜びの表情を間近で見ることができ、満たされた気持ちになりました。社会奉仕活動は、クラブと支援を必要とする人々との間の、目に見えるつながりとなるものです。

私の国際会長の年は、いくつかの浮き沈みがありました。仙台YMCAで開催された国際議会期間中にがんの検査結果が出たにもかかわらず、議会では充実した時間を過ごすことができました。国際会長就任式のために家族も来日し、私たちにとって特別な時間となりました。私の手術から間もなくして、もう一つの挑戦となることが起こりました。次期国際会長のポール・ヘンリック・ホーヴ・ジェイコブセンが亡くなりました。これは予想外のことで、とても悲しいことでした。幸運なことに、ポール・ヘンリックの後任として、ジェイコブ・クリステンセンというデンマーク

次頁下段へ続く

命の川を信じよう

我がインドのペッパー・フレンド

元地域会長・国際事業主任 ウルリック・ラウリドセン デンマーク

1998年、私は、ヘルシンキで開催された国際大会に参加し、最終日にはインドの写真が飾られたスタンドを見ていました。すると、一人の若い男性がやってきて、ボードを掃除し始めました。私は彼にどこから来たのかと聞くと、彼は「インドです」と答えました。

私が「インドのどこ?」と聞くと、彼は私を見て、「ケララ」と言いました。「ケララ州のどこ?」と聞くと、彼は私がおかしいと思ったようですが、その後「コーリコード」と答えました。すかさず、私は、昔、コーリコードに行ったことがあると彼に言いました。

すると彼は、「おう!」と言って続けました。「私が8歳の時、YMCAのユースパーティーにお客さんが来たんだ。ヨーロッパから来たカップルが歌を教えてくれて、一緒に遊んでくれたんだ」。私は、普段パーティーで歌っている歌をいくつか挙げ、「幸せなら手をたたこう」を歌うと、彼は「それだ!」と言いました。

彼の名前は、ビジュ・ジェイコブで、彼のお父さんは、地元のワイズメンズクラブの書記をしていました。その2年後、私はゴアにいましたが、その後コリカートを訪問しました。その際に、彼

の両親の家に泊まりました。2004年、コーチで開催された国際大会の後、私は、デンマークのグループをコーリコードに連れて行き、ワイズ

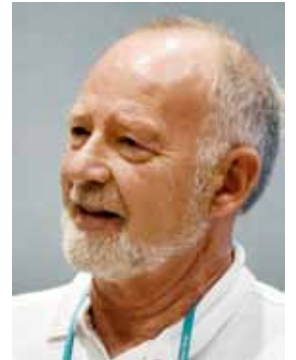
メンズクラブの友人の家にお世話になりました。私たちは、500年以上前にヴァスコ・ダ・ガマとその一行が上陸した場所であるカパッドに行き、伝統的な造船所を訪れ、コーリコードのワイズの仲間との交流を楽しみました。

数年後、私は再びコーリコードに行きました。また、その後、インドを訪問した際には、デリーとムンバイにビジュが訪ねてきました。彼の父親が香辛料店を経営している関係で、ビジュは、私に会いに来るたびに、数

キロの胡椒をくれるのです。その後、彼は結婚し、素晴らしい娘さんがいます。私にとって、ビジュは、インドのペッパー・フレンドです。



筆者とビジュ・ジェイコブの可愛い娘さん



前頁より



ローズボウルパレードで。2020年1月

人の優秀な人材を見つけることができました。

トレードで開催されたRDEサミットは、YMIにとって初の試みであり、全地域から約100名のリーダーが参加した、楽しいイベントとなりました。私は、その場に居合わせ、他の国際執行役員やリーダーたちと一緒に参加することができて、とても幸せでした。チャレンジ22は、YMIにとって重要な戦略となっていて、このイベントは、その理念をYMIの活動や方針に定着させるのに役立ちました。また、YMCAで長年働いていたジョース・ヴァルギースが国際書記長として着任したことは、YMIにとって重要な転機となり、私たちに多くの方向性、洞察力、インスピレーションを与えてくれました。

2020年の新年には、ラッセルと私は、ロサンゼルスに行き、ローズボウルと国際会長主催のディナーに参加しました。地元のメンバーの家でディナーを主催することで、地元クラブの活動や関係者の熱意と献身を紹介することができました。IPディナーでは、以前から名前を知っていたのに、初めて会った歴代のリーダーたちに直接会うことができました。年次会議は、同年2月にオーストラリアのベンディゴで開催されましたが、3月中旬

に世界が国境を閉じ始めたこのタイミングで開催できたことに感謝しています。私は、オーストラリア区の歴史ある熱心なクラブと個性豊かなクラブメンバーを、訪れた国際執行役員に紹介することができ、とてもうれしく思いました。

Zoomプラットフォームの恩恵

昨年、Zoomプラットフォームを使用したことで、各地域のリーダーがミーティングに参加し、お互いをよく知ることによって、YMIの結束力が高まりました。一つの運動体としては、私たちはまだ会員数増加のための魔法の公式を見つけられずにいます。しかし、私たちは、挑戦し続け、いつかは目標に到達するでしょう。

この3年間、トップレベルでリーダーシップを発揮してきましたが、「トロイカ」という強い絆で結ばれていることに感謝しています。次期のリーダー、現在のリーダー、そして直前のリーダーからなる3人組のチームは、素晴らしいサポートの機会を与えてくれ、実りある結果をもたらしてくれました。このトロイカという制度は、信任されたリーダーが運動の利益のためにお互いをサポートする気持ちがあれば、どんなレベルでもうまくいくという、とてもシンプルなものですが、私一人の力では、これらのトップレベルのポジションを管理することはできなかったと思います。私たちがチームとして協力したことをとても嬉しく思います。また、家族や信仰、友人たちの祈りのサポートが、このような興味深い時期を乗り越える助けとなったことも知っています。私たちが求められた場所で奉仕できるということは、何と嬉しいことでしょう。

連帯して

インドにおけるパンデミックが悪化する中で、YMI が支援の手を差し伸べる

ワイズメンズクラブ国際協会は、協会の「世界を癒そう」プログラムを通して、インドに対して至急の支援を行うべく緊急アピールを開始しました。

インド国内の各クラブは、病院や最前線の保健センターに、防護服キット、N95マスク、酸素濃度計、ベッドシーツ、枕カバーやその他必要とされる物品を提供して支援しています。その他の支援活動としては、食料の提供やワクチン接種の支援等があります。

このような重要な援助活動を支援するために、ワイズメンズクラブ国際協会は、まず、国際会長裁量基金から1万スイスフランを拠出しました。これは直ちに、韓国地域による、所属各クラブによる各部の参画を支援するべく、「世界を癒そう基金」からの追加の1万スイスフランの拠金によって、後押しされました。



第2部（南西インド区）が、ワイズメンズクラブ国際協会の「世界を癒そう」プロジェクトの下で、8万インドルピーに及び新型コロナウイルス対応資材をトリヴァンドラム市長に手渡しました。

インド国内における新型コロナウイルス感染患者の拡大に対応して奉仕とケアを行うための、インドのクラブによる地域保健支援活動は、国内の多数の保健従事者、病院、診療所を支援しています。その内の幾つかのプロジェクトに



中央インド区内のクラブが飢えた失業者に食料を提供しました。



中西インド区は、PPE キット、手袋、手指消毒剤を最前線の医療従事者に配布しました。写真は、インド地域 APE オーレリアン・フィグレドが区内州議会議員に最初の支援資材を手渡しているところです。

は、ワクチン接種キャンプの設置、活動グループや支援デスクの形成、保健従事者用防護具（PPEキット）の提供等があります。

ファンドマッチングのシステムを通じて、インド地域は、各部が各地のニーズを見極め、病院や最前線の保健センターに対してPPEキット、N95マスク、ベッドシーツ、枕カバー等の必需品の支援を行うように奨励し、その活動を支援しています。



南インド区コイナトクラブの広報活動



西インド区のチェンペリクラブが、救急と医療サービスの支援応募者対応デスクを運営しています。

インド:YMIとYMCAにとって特に懸念される地域 パンデミックの恐怖に打ち勝つために始められた共同の取り組み

YMIインド地域とインドYMCA同盟は、1,000を超えるクラブと地元のユニットを通じて草の根レベルで新型コロナウイルスとの戦いに協働して取り組みました。YMIが推進するグローバルプロジェクト「Heal the World(世界を癒そう)」の一環として、2つの組織は、インドYMCA同盟会長のJ.B.コシイ判事が、2021年5月23日にオンライン会議で立ち上げた共同ミッション「インドは新型コロナウイルスと戦う」を発進させました。

インドYMCA同盟総主事、バートラムデバダスとYMIインド地域書記A.K.シュリハリ博士は、2021年3月に終了する2020年の、パンデミック時代に二つの組織が行った活動について簡単に報告しました。また、今年も新たな熱意と意欲をもってミッションを遂行することを誓い、今すぐに、そして長期的に何ができるかを説明しました。

「Heal the World(世界を癒やそう)」プロジェクトについての発言の中で、YMIの次期国際会長であるキム・サンチェ博士は、韓国のクラブと地域が、このために10,000米ドルの追加資金でインドを支援することを表明しました。会議の来賓であるポール・アレキサンダー判事の孫で一番年下のアラン・オトウェルは、彼の記憶を思い出し、世界、特にインドにおけるこれら2つの運動体の成果を称賛しました。



アニサ・ベニー部長(西インド区)が、地方政府の高官の同席のもとで、ケララ州議会のメンバーに、医療用手袋とPPEキットを手渡しました。

公表された行動計画

YMIインド地域書記は、発表の中で、インド地域は、パートナーシップ、サポート、協力のために、インドのYMCAおよびUni-Yクラブと手を組むつもりであると述べました。「私たちは、共に、私たちの強みを活用し、インド医師会(IMA)と協力して、2021年6月の第1週に10万人に無料の予防接種を提供します」とシュリハリ博士は、述べました。地元のユニットやクラブは、そのような集団予防接種キャンプを実施するよう奨励されています。

2021年の第2フェーズでは、即時の救済が行動の焦点となります。YMIインド地域の40の部にグループ化された483のクラブは、現在および次期の部長のリーダーシップの

下で、行動計画の実行を確実にするために、PPEキット、酸素濃度計、手指消毒剤、N95マスク、フェイスシールド、ベッドシーツ、枕、その他の必需品を、それらを必要とする人々と共同ケアセンターに配布するように勧められます。

インド地域のすべての区が新型コロナウイルスとの戦いで発生した総支出は、2021年3月に終了した第1段階で約2,370万ルピー(約32万米ドル)でした。現段階では、ジェイコブ・クリステンセン国際会長は、彼のIP裁量基金から、即時救済のために、総額800,000インドルピー(約10,000米ドル)を支出すると発表しました。

これとは別に、アジア太平洋地域、ヨーロッパ、韓国、オーストラリア地域も支援を約束しており、これまでクラブを通じて費やされたこの段階でのインド自身の貢献(4月と5月に報告)は、570万ルピー(約77,000米ドル)です。

インド地域は、すべてのクラブ会員の寛大な心と貢献に感謝しています。

希望を継続的な行動のきっかけにしましょう

本日、ワイズメンズクラブとYMCAのメンバーに話をするように頼まれたことを光栄に存じます。皆さん方は、組織の目標を達成し、インドの人々の状態を改善するために、長い間、多くのことを行い、懸命に努力してきました。皆さん方が成し遂げたことは、本当に、本当に刺激的です。



本日は、みなさんのご尽力に対する判事(ポール・ウィリアム・アレキサンダー)の愛と称賛が、ここで皆さんと共に感じることが出来ます。私の子供の頃の思い出には、祖父が毎週私に本を読んでいることが含まれています。ワイズメンズクラブとYMCAが彼の人生の大部分を占めていることを私は知っていました。

2019年のポール・ウィリアム・アレキサンダーレガシーツアーが、オハイオ州トレドで開催されて初めて私は、ワイズメンズの活動に積極的に参加するようになりました。昨年、私は、トレドワイズメンズクラブに謹んで参加しました。私は、この慈悲深い組織を助けることができることを願っています。

私の国では、インドでの新型コロナウイルスの流行の報告を受けていますが、メディアの報道では、あなた方が経験している真の被害を捉えることはできないと思います。妻のサンディと私は、これまでに起こった、そして今も続いている悲劇的な命の喪失に対して、心からの深い悲しみを表明したいと思います。苦しみと喪失の大きさは、驚異的であり、胸を痛めない人はいません。私たちは、ひざまずかずにはいられません。

ワイズメンズクラブとYMCAの両方の組織が直接影響を受けています。あなたの同僚の何人かは、この悪質な病気にかかっています。それは、私たちの涙を誘い、胸が痛みます。

米国では昨年、悲惨な状況がありましたが、徐々に良くなりました。そうならなければなりません。希望を持ちましょう。この希望を持って、周りの人や自分自身を癒していきましょう。この希望が継続的な行動のきっかけとなるようにしましょう。一步一步、一息一息、一日一日。

ポール・ウィリアム・アレキサンダーの人間への奉仕のビジョンは、私たちの忍耐と努力を通して耐え、花開きます。一緒に働く私たち一人一人が違いを生むことができます。私は、インドのワイズメンズクラブとYMCAが行った人道的リーダーシップを全面的に支援し、称賛します。

私たちは皆、新型コロナウイルスに感染して苦しんでいる人々、また新型コロナウイルスによって愛する人を亡くしたり、その他の困難によって苦しんだりしている人々に、慈悲深い愛と思いやりを送らなければなりません。苦しんでいる人たちに私たちの祈りと思いやりを感じさせ、私たちの行動を見続けさせてください。

共同事業のスタートに際して、YMIの創設者であるポール・ウィリアム・アレキサンダー判事の孫であるアラン・オトウェル

Week 4 Waste(YMI ワールド・クリーンアップ・プロジェクト)に ワイズメンズクラブは、熱意を持って取り組んでいます。

Week 4 Wasteプロジェクトが4月の最終週に行われ、いくつかのクラブが近隣の清掃活動を始め、4月30日の時点で、20のクラブ、部が、地球をこれまで以上に綺麗にするために約 8,000kg のゴミを収集したという情報が届いています。すべて素晴らしい活動です。

以下のページには、世界のさまざまな地域から一握りの物語が紹介されています。皆さんと共にもっと良い明日を築き、この世界をより住みやすい場所にしましょう!



ハワイ、アメリカ:カリヒYサービスクラブのメンバーとその家族が、4月24日にヌウアヌ・バレー・パークで開催されたWeek4Wasteプロジェクトに参加しました。この公園は、フラ・ハーウ(フラを教える所)、犬の調教師たちや子供たちがバスケットボールをするための遊び場として使用されています。公園の従業員は、庭の植生を刈るのに忙しく、クラブのメンバーに刈り取ったヘリコニアを贈り、彼らは、それを家で育てるだろうと言っていました。

メラニー・ミエコ・カアイフエ・ヨシダ部長、ハワイ区



カメルーン、アフリカ:Week4Wasteの期間中、子供たちも参加していました。現在一緒に活動している子供たち10人が環境清掃活動に参加しました。ニュービジョン・バメンダクラブでは、脆弱な子供達と特殊能力を持った子供達が最優先です。

ウィルバ・ウスミラ、ニュービジョンバメンダクラブ会長、カメルーン



ボリビア・ラテンアメリカ:4月18日(日曜日)は、コチャバンバのYサービスクラブにとって重要な日でした。そのメンバーは、Week4Wasteキャンペーンの一環として、市の中心部を流れる、市民にとって肺の機能となっている河川の清掃作業として、地方自治体が推進する活動に参加しました。

セルジオ・ロペス・A、コチャバンバYサービスクラブ会長

地域からのニュース



チリ、ラテンアメリカ:サンティアゴワイズメンズクラブは、リサイクル(Recycle)、削減(Reduce)、再利用(Repurpose)、回復(Recover)、再考(Rethink)の5つのRを頭文字に宣伝し、Week 4 Wasteの活動を行いました。私たちは、クリーンな環境には、リサイクルが必要だと信じています。—Week4Wasteのフェイスブック・ページから。



コンボ、ヨーロッパ:コンボYMCA同盟総主事ドリナ・ルカ・デービスは、次のように書いています。「コンボのYMCAは、Week4Wateに積極的に参加しました。これは素晴らしいイニシアチブであり、このような活動をさらに積極的に継続していく必要があります。ウルリック・ラウリドセンの考えと優れたリーダーシップに感謝します。よくやりました。」



シャルジャ、インド:シャルジャクラブのメンバーは、適切な方法で廃棄しないと危険がある事を認識してもらうために、電子機器を廃棄しないで適切な方法で収集することに集中しました。コンピューターからデジタル温度計を含む電子機器が数箱分回収されました。



デンマーク、ヨーロッパ:マーセリスボー、オーフス、クロンジランド、ソロディアナランド、ルンデネス、コルディングの各ワイズメンズクラブは、よりクリーンな都市づくりのために素晴らしい活動をしています。

地域からのニュース



アジア太平洋地域・香港：香港のワイズは、タイボのサンムンツアイで4月25日にドラゴンボート(カッター)で海岸の清掃作業に従事しました。この作業は、ワンタウトンとJAMDBドラゴンボート・クラブとの共同作業で、香港の国際OISCAを含めた環境団体などと共催しました。この活動におよそ60人のワイズとドラゴンボート・クラブの会員が漕ぎ手として参加し、捨てられた漁網、家具などを含めた1,428kgのごみを収集しました。



アジア太平洋地域・ネパール：ネパールで4月に2度目のロックダウンとなる前に、ネパールのルンビニYサービスクラブ、サマンタスクールワイズユースクラブ、そして、香港部のルンビニワイズユースクラブ、さらには、サーブ・ピープル・ネパールが共同でWeek4Waste活動に参加しました。カワソチ市の学校や近くの道路の清掃に従事しました。ルンビニYサービスクラブは、サマンタスクールにバケツや清掃道具を寄付しました。

ルンビニYサービスクラブ会長ディーバック・バンドリ



米国地域・ハワイ：アサートンYサービスクラブの会員は、Week4Waste活動の一環としてミリラニYMCAで不要になった電子機器(プリンター、パソコンなど)の回収作業をしました。成分分解しないプラスチックを含む電子機器や環境に有害な薬品やリサイクル可能で新たに原材料の採掘を必要としない再利用可能な金属部品が集められたこれらの電子機器は、リサイクルするなり、または、しかるべく処分されました。

ハワイ区部長メニア・ミエコ・カイフエ・ヨシダ



ヨーロッパ地域・ノルウェー：マンダルワイズメンズクラブは、Week4Waste活動の一環としてウルバスカ公園で750キロの有機海藻や20キロのプラスチックを回収しました。

地域からのニュース



ヨーロッパ地域・エストニア:クラブの何人かの会員は、Week4Waste 活動の一環としてエストニアのパム・ラレクア地域のバツ通りを歩き、道路、芝生、バス停の辺りの清掃をしました。



米国地域:Week4Waste活動の一環としてセントルイスのキャロンドレイトYサービスクラブの会員は、地元のYMCAの周辺の清掃活動をしました。



アジア太平洋地域・マレーシア:シルバーステイト・ワイズメンズクラブは、Week4Waste活動の一環として346kgの銅線、鉄製品、雑誌、古い書籍、新聞、電子部品、ペットボトル、ソフトドリンクの缶などを収集しました。彼らは、リサイクル業者に売り、貧しい家庭や片親の家族を支援しているイーシャン・チルドレンセンターを支援する資金を提供しました。



アフリカ地域・ナイジェリア:Week4Waste事業の一環で、カドナワイズメンズクラブは、近所の清掃に従事し、理事の誕生日を祝いました。



アジア太平洋地域・西日本区滋賀蒲生クラブ
滋賀蒲生野クラブでは、チャーター30周年記念の年に、Week4Wasteの奉仕を行いました。映画のロケ地として有名な観光地である八幡堀のゴミ拾いと滋賀のYMCA誕生の立役者であるW・M・ヴォーリスの記念館の清掃を行いました。国際協会のベストを着用して、10名が参加して、ゴミ121kgを回収しました。琵琶湖の水質保全に協力して、SDGsの働きも実施できました。



滋賀蒲生野クラブ会長 三原静江

地域からのニュース

大小様々な親切の活動

カリブ: 限度のない思いやりの心



マンデビルYサービスクラブ(ジャマイカ、カリブ区は、スパニッシュ・タウンの寝たがりの夫婦に贈り物を寄付しました。80代のご夫婦は、古くて錆びた垂鉛メッキのフェンスが有る、10×30の木造住宅に住んでいます。彼らが住んでいるのは、俗に言う「長屋」の中で、他の3人の大人と一緒に暮らしています。敷地内にはいくつかの家が建っていますが、建物の間を歩けるのは、一人だけの狭い所です。水道や配管、屋内のトイレなどの設備も有りません。私たちが分け合った贈り物の中には、ペットボトルの水3ケース、大人用おむつ5パック、食料、新品の4口ガスコンロ等です。私たちの願いは、自分の子供ではない多くの子供たちを育ててきたこの家族が、私たちの贈り物によって祝福され、少しでも快適に過ごせる事です。

出典:マンデビルYサービスクラブのFBページから

ロシア地域のホームレスへの贈り物



寒さの厳しいサンクトペテルブルグでは、春の訪れとともに、多くの人たちが目を覚まして新たな気持ちで、衣類やその他の必要品を20パック集め、5月初旬にホームレスの避難所に届けられました。

インド: 貧困者やホームレスへの食料提供



バンガロール・パイオニアワイズメンズクラブは、キドワイ研究所/オンコロジー、NIMHANS病院、ビクトリア病院周辺の205名の貧しい人々や困っている人々に食料パックを配布しました。このパンデミックの時代に、これらの食料は、非常に感謝されました。

デンマークからラトビアへの大量の贈り物



レムヴィワイズメネットクラブとワイズメンズクラブが集めた中古の家具などの荷物は、直ぐにラトビアのリバニとツェーシスに有る友好クラブに送られました。

善行の日



ロシアでは毎年3月15日は、「善行の日」です。この活動は、2007年に始まりました。今年は、パレンツ部(ロシア区)のワイズメンバーが、老人ホーム、保育園、犬の保護施設、特別支援を必要とする子供たちの学校に必要な物を集めて届けました。一日にしては成らずとも、それを受け取った人々には温もりと愛がもたらされました。

マリナ・マカロヴァ/ロシア区元理事



2020年にロックダウンが宣言されて以来、南インド区のクーノワイズメンズクラブは、毎週日曜日に飢えた人々やホームレスの人々に聖アントニー教会の敷地内にて食料パックを配布しています。

タイ: 共同活動



チェンマイYMCAとチェンマイワイズメンズクラブの代表者は、PPEキット(個人防護具)40個、食料品、飲料水をチェンマイ・エキジビション&コンベンションセンターの野外科の新型コロナ感染者用に寄贈しました。

カナダ:ナシュワクシス Y サービスクラブがボランティア支援を提供

ナシュワクシス Y サービスクラブは、60 年以上にわたり、北フレデリクトンと地域社会にボランティア支援を提供してきました。85 名のナシュワクシス Y サービスクラブは、カナダ最大のクラブです。そして、フレデリクトン YMCA は、幸いな事に彼らのボランティア活動を得ています。10 月に開催される「2021 SPIN for YMCA Strong Communities」イベントのプラチナスポンサーとして、ナシュワクシス Y サービスクラブが参加する事になったことに興奮しています。新型コロナウイルスのパンデミックが起こる前、クラブは、地域の慈善団体やスポーツクラブを支援するために毎月地元での朝食会を開催する事で知られていました。毎年2月にはYMCA Strong Communitiesは、地元での朝食会のキャンペーンを開始しました。これは楽しい機会でした。地域の会員が集まり、コーヒー、卵、パンケーキを食べながらクラブ会員が料理を作り、スムーズに運営されているかどうかを常に確認していました。クラブは

「ウィリー・オリ」食堂も運営しています。スナックや飲み物の販売で得た資金は YMCA の Strong Community キャンペーンやその他の小・中・高校のスポーツや音楽で青少年を支援するプログラムに使われています。その代わりに、多くの若者のグループやスポーツチームがボランティアとして全ての募金活動に参加しています。近い将来、これらの地域活動に本格的に復帰できることを、私たちは、願っています。地域での朝食会や食堂運営に加え、クラブは引き続き「ウィリー・オリ」競技場の掲示板に広告を出したり、12 月には Main Street Home Hardware の駐車場でクリスマスツリーを販売しています。2019 年 11 月には、当クラブは、YMCA 平和賞を受賞致しました。フレデリクトン YMCA と広域地域社会は、ナシュワクシス Y サービスクラブの仲間の努力と献身に感謝しています。出典:フレデリクトン YMCA の FB 投稿



フレデリクトンYMCAのロビーでの一コマ
年を支援するプログラムに使われています。その代わりに、多くの若者のグループやスポーツチームがボランティアとして全ての募金活動に参加しています。近い将来、これらの地域活動に本格的に復帰できることを、私たちは、願っています。地域での朝食会や食堂運営に加え、クラブは引き続き「ウィリー・オリ」競技場の掲示板に広告を出したり、12 月には Main Street Home Hardware の駐車場でクリスマスツリーを販売して



クラブの活動内容を知ってもらうために



ナシュワクシスYサービスクラブの会員

USA: 女性会員による再生活動(財布プロジェクト)

ニューヨーク・ウェストチェスター Y サービスクラブの会員が、またしても最近素晴らしいチャリティープロジェクト「天使にラブソング再び(財布プロジェクト)」を実施しました。彼らは、200 個のハンドバッグや財布(6,000 米ドル相当)

をメンバーや有志から集め、ブロンクスにある女性保護施設に寄付しました。これは、2ヶ月足らずでワイズメネットが成功させた2つ目のプロジェクトです。このプロジェクトは、リサ会長、ジェシー・アント・カナデン書記、ジュビー・パラッカ

ル会計のリーダーシップ、心からの協力が有ったからこそ、この素晴らしい活動が出来たと思います。
シャジ・ザハリヤ、
ニューヨーク・ウインチェスター



ニューヨーク・ウェストチェスターYサービスクラブの会員と収集し、寄付した沢山のハンドバッグや財布類

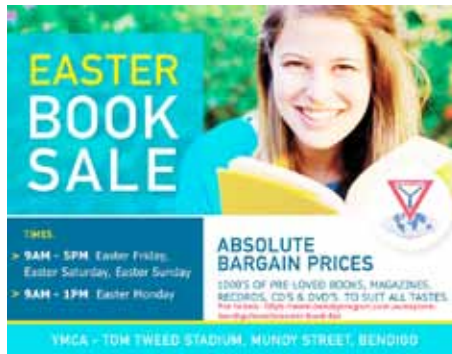


地域からのニュース

オーストラリア:新常態下での復活祭ブックフェア

様々な視点から考えて、復活祭ブックフェアは、成功でした。売上総額は、昨年の復活祭と比べておよそ2割減でしたが、数値的な制限があった事を考慮すると、良い結果であったと考えられるでしょう。

1日、1時間ごとの入場者数に制限が設けられました。当初は、1日の入場者の上限は、ボランティアを含めて1,000人だと伝えられていましたが、フェア前日の夜、1,000人にはボランティアを含めないと伝えられました。1時間ごとの入場者制限を設けた理由は、テーブルやその他の備品の占めるスペースではなく、会場の床面積が限られていたからでした。私たちは、入場者160人、



ボランティアが想定されていた以上の仕事に関われたという事を意味します。

毎回制限時間が終わるごとに入場者全員に退室をお願いするのは面倒なことなのですが、幸運にも会場がそれほど込み合っていなかったのも、土曜日の午後の遅い時間以降にスタッフは、入場者の退場を促すことなく、より多くの登録者の入場を認めてもらいました。

テーブルの配置も異なっていました。主にテーブルを繋いで1列に並べる代わりに、2列に並べました。そうすることにより入場者間の距離がテーブルを挟んで2倍の1.5m以上に広がりました。驚いたことに、入場者の反応は特にフェイスブックで上々でした。会場がそれほど込み合っておらず、より広い「スペース」が確保されていた事が良かったとのことです。

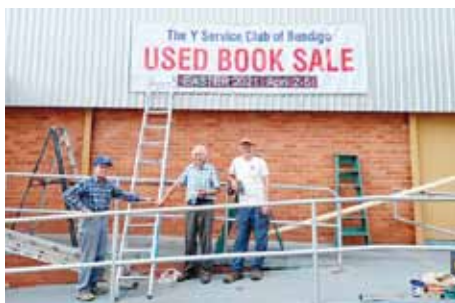
初日午前中の中の入場者制限方法に関しては、考え直す価値があります。1つの可能性として初日午前9時からの入場者に関して、例えば10ドルを徴収、10時からの入場者



購入者を待つ膨大な量の書籍の列

からは5ドルを徴収、それ以降のブックフェアの入場を無料とすることが考えられます。そうすれば売上額がもう少し上がることににつながるでしょう。

コリン・ランビー、ベンディゴ



セールの準備

事が求められ、入場の際にそれを提示する事になっていました。入場希望者は、更にQRコードを用いて登録するか、名前と詳しい連絡先を提供するように求められました。

グレーターベンディゴ市の2人のスタッフが、復活祭を通じて入場口に配置されました。配置された市のスタッフは、大勢の入場者の登録手続きをテキパキとこなしました。スタッフが、登録手続きの責任を負ってくださったということは、私たちボラ

ボランティア15人という数字をはじき出しました。

このブックフェアは、チケット制で実施しました。入場希望者は、特定の1時間無料チケットをオンラインで登録する

インド:早めの予防接種注射は、大勢の人の懸念を払拭する

新型コロナウイルスの蔓延を食い止めるワクチン接種に懐疑的な150人を超える人たちが、チェンナイ・カラパッカム Y サービスクラブとチェンナイ KCG 大学ワイズメンズクラブのメンバーによって予防接種注射を受けるように説得

されました。このワクチン注射は、第2波がインド国内に大きな被害をもたらしたばかりの3月19日、両クラブにより設けられた特別予防接種会場で、医療専門家により実施されました。



予防接種会場の様子

チェンナイ市郊外に位置する KCG 大学周辺に居住する未熟練労働者、半熟練労働者を含む男女と数人のクラブメンバーが予防接種注射を受けました。

マダン・チャンドラセカラン、チェンナイ



悔い改めの巡礼

数か月前のことですが、私は、ベトナム中央部にかつて存在していたマイライ村の住宅の基礎部とその住民たちの集団墓地の中に立っていました。この場所は、現在、1968年3月16日の朝の4時間の間に虐殺された504人を追悼する穏やかな庭園になっています。その運命の日にチャーリ歩兵中隊から派兵されたアメリカ人部隊が徒歩でマイライ村に侵入し男性、女性、子供、赤ん坊の区別なく殺戮を始めたのです。この残虐行為に関わった兵士達の報告によると、彼らがその現場にいた間に敵からの反撃の証拠はなかったとのことでした。



虐殺されたマイライ村犠牲者慰霊碑

それぞれの墓にはそこに埋葬されている人の名前と年齢が刻まれています。1つの墓には最年長者の80歳代の女性から最年少の2歳児を含む8名の名が刻まれています。墓石に刻まれた人たちの名前を読みながら、この記念庭園をゆっくりと歩きながら木々の間にこだましていた子供たちの笑い声がその日の朝、銃声が鳴り響いた時に、突然どのような恐怖の叫び声に変わったのであろうかと想像をめぐらしていると、まるで天国からの涙のように小雨が降り始めました。降り注ぐ雨粒は、駆り集められ、攻撃用ライフルと軽機関銃で殺戮された100人以上の村人が埋められた豪の水の上に幾つもの悲しみの輪を広げていきました。慈悲を求める村人たちの嘆願が聞き入れられることはなかったのです。

親族がその運命の日に亡くなった親族を持つ、ある若いベトナム人女性が私にその話の一部を語ってくれました。マイライ村が墓場と化した時に彼女は、まだ生まれていませんでしたが、彼女の親族とマイライ村に起こった出来事の痛みは、彼女の眼と心に鮮明に刻まれているのです。私たちが、ある家の基礎の前に立ち止まったり、墓石の一つに埋葬されている人たちの名前を読んだりしている間、時折彼女の涙は、落ちてくる雨粒と交じり合いました。この出来事は、今も彼女の心に深い傷跡を残しているのです。それにも関わらず、この悲しい歴史を振り返る巡礼の旅で私に付き添いながら私に対してもアメリカ人に対しても敵意を

示すことはありませんでした。私が彼女に1971年当時、マイライ村から僅かおよそ16キロの場所に住んでいた事を伝えたと、彼女はすぐさま私が何をしていたのかと尋ねました。私は、教会で働いていてベトナム戦争に反対していたと説明しました。彼女は、私を見て言いました。「あなたは幸運ですね。あなたの心は安らかです。」それは彼女（被害者）の側からの赦しの表現でしたが、私は、十分に納得できませんでした。それは、加害者側は未だに赦しを求めているだけでなく、この村とこの村にかつて住んでいた人々に対して

行った行為を正す真剣な努力をしていないからです。従って、悔い改めと赦しの過程は、まだ完了していないのです。なぜなら、悔い改めのない赦しは、受け取られても、開かれてもいない貴重な贈り物のようなものだからです。

マイライ村の静寂を後にしながら、大きな苦しみを経験した人たちと涙と悔い改めを共有するために私たち全員がマイライ村のような場所に巡礼の旅を始めるなら、それは、世界にとってどのような意味を持つのだろうかと思いを巡らせました。おそらく癒しと和解の時が始まり、世界は、より良い場所になるのではないのでしょうか。私たちの社会と世界がとても必要としている癒しが始まるように、今こそ私たちが直接的、間接的に苦しみを与えた全ての場所と全ての人たちの元に巡礼の旅を始めるべきではないのでしょうか。



YMI ワールド誌は

クラブの指導的立場にあるメンバーに、実施した活動に関する記事を1枚以上の高解像度の写真と適切な短い説明文を付けて送られることをお勧めします。記事は、150語(英語)以内でお願いします。読者の皆さんもグローバルな私たちの運動に関する関心事について、ご意見や原稿をお寄せ下さい。記事と写真は www.ysmen.org/ymiworld に送り下さい。次号掲載記事の提出締切日:2021年8月31日

* マックス・エディガーは、カンボジアの「平和の学校」の運営責任者です。彼は、長年のブロガーであり、この記事は、以前のブログに掲載された記事の一つで <http://calebandshalev.wordpress.com/> から転載されたものです。

1962-1974 年の国際会長

37. E・ジェyson・マッコイ・Jr(1923-2017)



1962-1963の国際会長
ホームクラブ:カントン
(米国・オハイオ州)
第5代国際会長エドガー・J・マッコイの子息

40. ロイ・E・ナイラー(1916-2001)



1965-1966の国際会長
ホームクラブ:サンタモニカ
(米国・カリフォルニア州)
1916年にカナダのサスカチュワンに生まれ、1928年に移住した。

38. ガーメット・W・マッケンジー(1912-1983)

1963-1964の国際会長
ホームクラブ:アクトン
(カナダ・オンタリオ州)
有人やワイズの仲間から「パット」と呼ばれていた彼は、教師であった。



41. ローレンス・C・ライト博士(1927-2011)



1966-1967の国際会長
ホームクラブ:バッファロー
(米国・ニューヨーク州)
バッファローの歯科医。任期中、イリノイ州オークブルックのワイズ本部の起工を支援した。

39. マイロン・A・スターム(1906-1994)



1964-1965の国際会長
ホームクラブ:エルムハースト
(米国・イリノイ州)
製造会社のセールスマンで、地元のクラブ、また、YMCAのボランティアとして多くの時間を費やした。

42. アーバン・ジョンソン(1925-1986)



1967-1968の国際会長
ホームクラブ:オレゴン
(米国・ウイスコンシン州)
ウイスコンシン電力会社に勤務

1962-1974 年の国際会長

43. チャールズ・リンクレター(1921-1998)



1968-1969の国際会長
ホームクラブ:サマーサイド
(カナダ・プリンスエドワード島)
リンクレターモーター、リンクレター旅行会社のオーナーであった。

46. ポール・H・ヨルゲンソン

1971-1972の国際会長
ホームクラブ:フレデリカ
(デンマーク)
国際協会の再編成の最中の国際会長。北アメリカ以外からの初の国際会長であった。



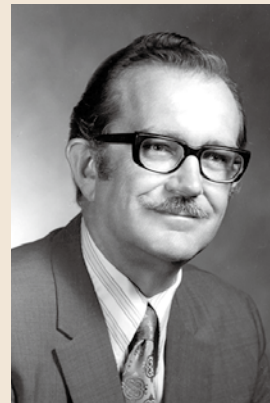
44. ハロルド・ウェスターバーグ

1969-1970の国際会長
ホームクラブ:ミネアポリス
(米国・ミネソタ州)

私たちの創設者と同じく、少年裁判所に勤務。ホームタウンのミネアポリスに、今も残るYMIの歴史文書倉庫を作ることに貢献した。



47. ハインツ・グラヴィア牧師(1920-)



1972-1973の国際会長
ホームクラブ:ダヴェンポート
(米国・アイオワ州)

1920年にドイツで生まれ、彼と彼の家族は、カナダに移り、そこで従軍した。任期中にTOFが国際プログラムに昇格した。

45. ジョン・P・プライス(1929-2016)



1970-1971の国際会長
ホームクラブ:インディアナポリス
(米国・インディアナ州)
遺言検認法律家として、種々の審理を行った。国際会長としては、女性の参加を認めることの検討を始めた。

48. シャーマン・ハーモン(1917-1994)

1973-1974の国際会長
ホームクラブ:フィラデルフィア
(米国・ペンシルベニア州)

彼の任期中に、女性がYMIのメンバーになることが認められた。アフリカ系アメリカ人初の国際会長



100 YEARS! 100 HONORARY MEMBERS!

100 年! 100 人の名誉会員!



100

since 1922

2,500 米ドルを 100 周年特別基金
に寄付することによって、
ワイズメンズクラブ国際協会の
名誉会員として認められます。

ACT NOW!

今、行動を!

BECOME

ご自身がぜひ。
**AN
HONORARY
MEMBER**

NOMINATE

または、どなたかを
推薦してください。



今日、お申し込みください。

www.ysmen.org/honorary-membership